第3種郵便物認可　山陽新

岡山市在住のシンガー・ソングライター沢知恵さん(49)は、東日本大震災の被災地でのコンサートを毎年続けている。ピアノの弾き語りを通じて「あなたたちを忘れない」との思いを伝えるためで、被災者がモデルの曲も制作して披露。今月に福島県の2カ所で予定していた公演は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となったが、事態収束後の訪問を誓う。（平田桂三）

岡山のシンガー・ソングライター沢さん

音楽で勇気を

東北3県公演続ける

東日本大震災の被災地でコンサートを続けている沢さん。「忘れない」との思いを伝えたい

東日本大震災9年

2011年の東日本大震災発生当時、沢さんは千葉県内で暮らしていた。東京電力福島第1原発事故による放射能の影響に自らも不安を感じつつ、甚大な被害に心を痛めた。

14年春に岡山へ移住した後も、原発の周辺地域や津波被害に見舞われた太平洋沿岸部の東北3県にたびたび足を運んでいる。

多くの出会いを重ねる中、被災者をモデルにした曲も生まれた。12年11月、宮城県東松島市で出会った高齢男性は、津波から逃れるため妻と高台に避難したが、妻は自宅に残した犬を連れに戻り、波にのまれたらしいという。沢さんは「男性に

被災者モデルの曲制作も

かける言葉がなかった」とする。

間もなく、作曲家宮川彬良さんの曲に自作の詩を添えた「S―やさしい風」を制作。〈さよなら言わないままで　旅立って行った人〉〈このごろひとりになると　涙があふれてくるの　泣かせて　それでいいと　あなたの声がする〉。大切な人を失った切ない思いをゆったりとした調べに乗せており、被災地では必ず歌う。

全国各地を巡回する通常の公演でも、その場その場で被災地の〝今〟を伝えるようにしており、現在ではライフワークとなった。

今月8、9日の福島県須賀川市、南相馬市での無料のコンサートは直前に中止となったが、事態が落ち着けば必ず訪ねると決めている。

「被災地で『その後いかが』と声を掛けるのが楽しみ。ずっと思いを寄せていることを伝え続けていきたい」と話している。